

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年4月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4699200012
法人名	株式会社 グループホーム天望台
事業所名	グループホーム 天望台
所在地	鹿児島県大島郡天城町瀬滝677番地1 (電話) 0997-85-4722
自己評価作成日	平成27年11月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム天望台は、道路に面して交通便が良く、施設の周辺には公民館やゲートボール場・駐在所・郵便局・スーパーなどがあり、社会資源に恵まれ、自然豊かな過ごしやすい環境です。公民館やゲートボール場は、ご利用者様の散歩コースや災害時の避難場所ともなっております。

当施設では、ご利用者様へ防災意識を持って頂くために東日本大震災の発生した11日(毎月)を訓練の日と決めてミニ防災訓練を計画しています。また、ご利用者様の気力や筋力低下防止の為、毎朝10時頃からラジオ体操・レクの先生を招き職員やご利用者様と一緒に踊り、地域の行事やユイユイサロンにも参加しています。天候を見てドライブをしながら外食なども楽しんでいきます。

園内は、広々と明るく玄関ホールにはソファを設置してあり、ご利用者様やご家族の語り合いの場となっています。玄関には思い出療法として、昔懐かしい壺や石臼等、昔使っていた道具を置いて見たり触れて懐かしんだり、何かを思い出すきっかけを作る1つとして取り入れています。

来年4月から駐在所の引き上げに伴いご利用者や職員(夜勤帯)の安全対策の一環として玄関に防犯カメラを設置しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○周辺環境が良く徒歩できる距離には公民館もあり、歩ける利用者は地域のサロン活動に参加したり、敬老会や祭りなどの地域行事に参加したり、外部からの慰問も多く、地域に定着した交流が十分に図れている。

○開設10年目を迎え、その間に管理者の交代はあったが、創設者の意思を継いだ施設長夫婦の利用者に対する温かい愛情が根底に感じられ、職員もその思いに応じて利用者を家族のように大切に接してケアを行い、事業所の理念の実践やサービスの質向上に取り組んでいる。

○健康面や体調管理に徹底しており、今季インフルエンザの罹患は1件もない。急変時は早期に医療機関と連携を図り、止むを得ず入院した場合も、できるだけ早期に退院させて施設で体力面や機能の回復に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝ご利用者と職員で理念を唱和し理念の意識付けを行い、理念に沿ったケアができていくか話し合いを行っている。	毎朝、利用者と一緒に理念の唱和を行っている。利用者の目線に立って、楽しく過ごす為にはどうしたら良いか常に工夫しながら、利用者が安全にゆったりと過ごせるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練にご利用者、施設職員も参加している。施設独自の訓練には協力員、運営推進会の皆さんに参加してもらったり、婦人会の慰問や外部からの来訪者との交流を行っている。	公民館の豊年祭りや敬老会に参加したり、ホームの誕生会には婦人会が来訪して踊ったり、近所の方がジャガイモなどの差し入れ等、地域のレクリエーション指導者が定期的に訪来し、普段から地域交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症サポーターとして地域の老人会の皆さんや運営推進会の皆さんに事業所で認知症について相談できることの情報を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2カ月に1回開催し、役場や地域の方の意見を聞いている。地域の方たちともお互いにいろんな意見を話し合いながら、協力もいただいている。</p>	<p>会議は定期的に行われ、事業所の運営や活動について意見交換を行っている。会議で救急搬送が多いとの意見があり、普段の体調管理を徹底しながら、早期に医療機関と連携を図るように努め、実践に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>何かわからない事がある時は、すぐに役場に相談している。役場も相談しやすい雰囲気。運営推進会議でも意見交換をしている。</p>	<p>行政へ出向いて、毎月ホーム便りを届けたり、運営上の相談事や利用者の情報交換を行い、アドバイスを頂き、協力関係を築いている。運営推進会議に参加して実情を知ってもらっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体の危険等、緊急性以外は見守りの強化、職員間の声かけや情報の共有を図り、拘束しないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束等の外部研修を受講した職員が伝達研修をしたり、月1回の学習会の中で身体拘束について学び、職員の共通理解を深めている。玄関は日中、施錠せず、外に出たがる利用者は声かけや見守りの強化をして自由な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について注意をはらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	資料を用いた研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約内容について、具体的に説明している。退所についても、家族ときちんと話し合っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアマネ兼管理者を苦情窓口とし、何かあった時はすぐに運営者に相談し、内容によっては職員全体で話し合い、対処している。また、口では言いづらい事もあると考え、「ご意見箱」を設置している。	利用者からは日常の暮らしの中で思いを聞いている。家族からは面会時に一緒にお茶を飲みながら、リラックスした雰囲気の中で要望や意見等を聞いている。意見や要望が出た場合は職員で話し合い、早期に対応できるように努めている。意見箱も設置している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月給料日を職員会議の日と定め、気付いた事や色々な案を出し合ったりしている。	毎日のミーティングや月1回の職員会議の中で、意見や要望を出し合い、運営に反映させている。職員からユニホームを支給して欲しいとの提案に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働く喜びを感じられるように常に考え、職員自身の健康が利用者様に深く関係することを話し合い給料も安定させて、不安のない家庭生活ができ楽しい職場作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人間形成が非常に大切であり、生涯学習を基本として人づくりを考えている。研修があれば必ず誰かが行くように、町内町外はなるべく全員で参加する努力を重ねている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネは、他のグループホームのケアマネと連絡を取り合い、勉強会をしたり、ケアマネ協議会の会合に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所予定になった際は、必ず連絡を入れ面接をするようにしている。出来ることなら、見学に来ていただきゆっくりと話しをするように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所申込用紙を取りに見えた時点で、ゆっくり話を聞くように努めている。遠方からの場合も電話で話を聞き、ファックスや郵送で申込書を送ったりして少しでも安心して申込が出来るよう配慮している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>介護認定を受けていない場合は、市町村に相談して、まずは介護認定を受ける事を勧めたり、早急に入所が必要そうな場合は他のグループホームや老人ホームにも申込をすることを勧めたりしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>洗濯物をたたんでもらったり、ジャガイモや人参・たまねぎの皮をむいてもらったりしている。職員よりも上手な事はまかせたり、教えてもらいながらしたりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所者が精神的に落ち着かなくなったり、体調を崩したりした時には必ず家族にも連絡を取り、一緒に問題解決に向けて悩んだり、ホッとしたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話をかけるのを手伝ったり、出かけたついでに馴染みの場所へ行ったり、近所の方と会えば話をする機会をもうけている。	自宅や友人・美容室等の馴染みの人との挨拶や会話をしたり、電話の支援をしている。島外から家族が帰省した場合は、外出や外泊支援を行い、これまでの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	玄関前のソファ椅子に座って県道を歩いている方達を見ながら話がはずみ、お互いの昔話に夢中になって、このホームは場所が良いと満足している。様子を見ながら、食堂の座る位置を替えたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会に行ったり、家族の方が遊びに来てくれたり、外で家族の方と会ったら必ず声をかけて近況を話したりしている。また、退所した方のお葬式には花を届け、運営者とケアマネが参列している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所したことで今までの生活を急に変えないように、出来るだけ今までの生活の続きが出来るようにしている。（例：本読み・写真鑑賞）	本人に寄り添い、表情などを観察し思いを把握している。普段接する中で「寂しい」と言葉が出た利用者には、家族に連絡して電話や面会を依頼している。何も訴えない利用者には家族と話し合っ、その人が好きなこと等、意向の把握に努め、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からだけでなく、家族や入所前に利用していた事業所のケアマネと連絡をとったり、馴染みの方と話をしたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族等とも話をしている。また、スタッフ間でも気付いた事は情報を共有し合えるように努力している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族やスタッフと話したり、往診や受診の時も基本的にケアマネが付き添い、医師や看護師とも体調のことだけでなく精神的な面も話すようにしてコミュニケーションをとっている。	本人や家族から希望を聞き、介護計画書を作成している。毎月の職員会議で利用者一人ひとりの状況を話し合い、モニタリングや評価につなげている。定期更新時や状態変化時にその都度、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に毎日各勤務ごとに記入し、情報を共有、活用出来る様に努めている。個々の情報が分かりやすいように、必要に応じてその人に合った個別の記録用紙を工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には家族が支援される一方になってしまわないようにと考え、受診等は家族に任せる様にしているが、その時の状況に応じて柔軟に対応している。また家族が遠方の場合、自宅の様子を見に行ったり、通院の支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	9月の敬老の日には、集落の敬老会に参加したり、協力員・役場・運営推進会役員などの協力を得て、交流会を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけではなく、入所前からのかかりつけ医に診てもらえるようにしている。かかりつけ医に対して不安がある時は、家族と話す機会を設け、安心してもらえるようにしている。往診がない医療機関がかかりつけ医の時は、受診の援助をしている。	これまでのかかりつけ医の受診を支援している。他科受診が必要な際は基本的に家族が受診援助をしているが、無理な時は職員で対応している。歯科受診は訪問してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	往診時に看護師と話したり、必要な時は往診時以外も電話で相談したりしている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	家族や、病院の事務や看護師だけではなく、医師やソーシャルワーカーとも連絡をとって対応している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	家族や医師と相談し、その結果特老に申込をいただいている。もしくは、事業所での対応が無理な場合は、医療機関への協力をお願いしている。	重度化や終末期の場合の対応について家族と話し合いをもってしている。特別養護老人ホームや医療機関との連携を取っている。家族の協力があれば、できる限り施設で見ていきたいという意向を伝えている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	係りは、ご利用者の病歴や既往歴などの情報を提供し、職員会等で対応の仕方を話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>協力員の方や、隣の駐在所にもお願いしている。たばこを吸う職員には特に注意して火の恐ろしさを話し合っている。毎月11日はミニ防災訓練をしている。</p>	<p>今年度は6月に消防署や地域住民の協力の下で火災訓練を実施している。11月には町の合同避難訓練に参加している。毎月1回、ミニ防災訓練を実施し、利用者や職員の災害対策の意識向上に取り組んでいる。台風時の備えや点検も確実に実施し、スプリンクラーは設置済みである。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉かけや対応もさり気なくするように努力しており、気付いた時は職員同士でも注意し合うように心がけている。</p>	<p>職員の言葉で不穏にならないように、丁寧な言葉使いを心がけている。排泄時の失敗は他に気付かれないように後始末を行い、プライバシーへの配慮や尊厳を傷つけないように努めている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>まずは本人の意向を聞くようにし、理解が出来ない時は、何度も説明したりして利用者からの決定を持つようにし、なるべく納得しながら生活出来る様に努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>買い物や散歩等、出来るだけその人に合わせて出かける援助をしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>運営者が美容師の資格があるので、散髪をしている。家族の由来がある時は、職員が美容院に連れて行ったり、洗顔や衣服の調整等を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備の際は、一緒に野菜の皮むきをしてもらったり、配膳等や茶碗洗いを手伝ってもらったりしている。	好き嫌いのある方へのメニューを変更したり、個々に合わせて食事を提供している。旬の野菜を調理に取り入れたり、行事や季節のメニューも取り入れている。定期的にドライブを兼ねて外出に出かけている。利用者の力量に応じて食事の下ごしらえやお膳拭き等を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶・牛乳・みきなどを利用者がほしい時は、お茶時間以外にも摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の方や歯がない方が多い為、一日3回、食事の後はお茶でうがいをしてもらっている。介助が必要な方は職員が見守り等介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	2時間おきに職員がトイレ誘導し、リハビリパンツなどを使用しないように心がけている。食堂には、排泄チェック表をおいてあります。	排泄チェック表を確認しながら、利用者のタイミングや身体状況により排泄誘導を行い、排泄の自立支援に向けて取り組んでいる。細やかな排泄支援により紙オムツの使用や失禁を減らす事ができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や、牛乳・ヨーグルト・食事等おもに野菜の摂取を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	夏場は、週に三回。冬場は週に2回湯船にお湯を張り、ゆっくりと浸かってもらっている。スタッフの都合がいい時は、決めた曜日以外にも入浴してもらう時もある。	入浴は本人が気持ち良く入浴できるように声かけや工夫により定期的に入浴支援を行っている。入浴日以外でも希望があれば対応している。失禁の場合は個々の要望に合わせた入浴支援も行っている。入浴をいやがる利用者には様子をみながら、無理強いしないように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯後も明かりがあった方がよいという人に対しては、つけたままにしたり、冷暖房も本人の好みを優先して調整し、快適に過ごせるようにしている。シーツも汚れてないかチェックし、清潔に出来るよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の内服薬の内容を一目見て分かるようにファイルに綴っている。疑問に思った時はスタッフ同士で声を掛け合い確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「いつも〇〇さんが洗濯物をたたんでくれて、助かります」とか、一緒に家事をしてくれて「いつも、ありがとうございます」と言ったりして、本人の意欲と張り合いにつなげるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	職員の用事で出かける時に一緒にドライブしたり、園庭でお茶をしながら草花を見たり、月1回ラーメン屋やファミレスでの食事を楽しんでいる。	日常的に職員と一緒に敷地内や近隣の散歩に出かけたり、ホームの庭先で日光浴しながらお茶を飲み、語っている。毎月定例でドライブしながら外出に出かけている。職員が用事や買い物で外に出る際にも、利用者と一緒に出かけ、外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度所持してもらっている。飲み物やお菓子等買い物を頼まれた時に職員が買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族から、手紙が来たり電話もかかってきたりする。本人が依頼する時は、家族に電話をかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関に家族からの贈り物の花や、季節の花を飾ったり、写真を貼ったりしている。また、リビングのテレビの前にはソファを置き、団欒している。	玄関口には季節の花木や写真、昔の民具が置かれ、家庭的な雰囲気を出している。リビングでは民謡や島唄などのCDを流し音楽にあわせて踊ったりしている。気候に応じて加湿器の利用や空調管理を行い、感染予防も図れている。リビングや玄関口・廊下などに設置されたソファでは、数人ずつがおしゃべりしながら、ゆったりと居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前や廊下・居室前にソファを置き、数名でおしゃべりが出来る場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には押入れとベッドが備えられ、部屋の外には濡れ縁がついている。使い慣れたベッドを持ち込むひともあり、それぞれがタンス・ドレッサーをもちこんでいる。孫からの贈り物を飾ったり、自分たちで色塗りをしたものを飾ったり居心地良い部屋の工夫がされている。	居室は転倒予防や安全対策の為、全体的に持ち込みの家具は少ないが、好きな家具を持ち込んだり、テーブルやタンス・壁に写真を貼ったり飾り物を置いたり、人形やぬいぐるみを持ち込み、居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	廊下は全体的に手すりを設置し、なるべく自力で歩行が維持できるようにしている。風呂場の浴室や浴槽に手すりを設置し、トイレ内も手すりを設置してある。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない